

## 所内研修「ブックトーク」の感想

今回で真座先生の講話を聞くのは、3回目くらいなのですが、毎回その専門性に本当に驚かされます。また今回は、ブックトークをする上での工夫の仕方について多くのことを学ぶことができました。特に、3つのことについて新たな発見がありました。1つ目は、ブックトークでの1冊1冊の本をつなぐ視点について分かりました。2つ目は、本を紹介するだけでなく、読んだ本の提示の仕方や折り紙などの小道具も取り入れて、子どもの集中力を高める工夫についてです。3つ目に、子どもに色々なジャンルの本に触れさせたり、読んでみたいという思いにさせたりするために、紹介する本の冊数を増やしたり、あえて名作や古典を入れたりするということでした。そして、真座先生の合間合間の言葉のかけ方も本を読んでみたいという子どもの思いを喚起することにつながるなと感じました。

これまでも子どもに読み聞かせをしたり、本の紹介をしたりしてきましたが、今日の研修を受けて、よいヒントをたくさん頂いたので、早速挑戦してみたいなと思いました。「いろいろな色」のブックトークでは、最後の1色を中学年くらいからなら、子どもたちに本を選んだり、探させたりすることもできそうだなと思いました。また、国語はもちろん、社会科・総合など教科の中でも取り入れられたいいなと感じました。(饒平名陽子)

講話から「気づき」を探してみました。本に貼られていた付箋紙が可愛い猫で、子どもの気持ちがワクワクすること。真座先生の笑顔と優しい語り口調で、お話に引き込まれていくこと。工夫として、色画用紙やストローで作ったカエルとお花、9色の折り紙を黒板に貼り、次々に絵本のタイトルを書いていくことでした。

「素敵だな」と思ったことは、テーマ「プレゼント」から始まり、「色」、「仕事」、花の贈り物、そして最後に真座先生からの「お話の贈り物です。」と締めくくり、その時間全てが「贈り物」だったことでした。本当に本との出会い、人との出会いが気持ちをほっこりとさせてくれました。

取り入れたいことは、国語の授業での3冊ミニブックトーク、学活や学級掲示物としてカエルや花のアイデアです。(外間牧乃)



写真1 「ブックトーク」の様子1



写真2 「ブックトーク」の様子2